

■アラブ首長国連邦：米国との原子力平和利用協定が発効

アラブ首長国連邦のユースフ・アル・オタイバ駐米大使は 2009 年 12 月 17 日、米国との間で原子力の平和利用協定を発効するという文書を取り交わすと発表した。この協定はブッシュ政権時代の 2008 年に交渉が行われ、UAE がイランの最大の貿易相手国であることから反対派議員を中心に懸念が示されていたが、2009 年 1 月 15 日にアブドラ UAE 外相とライス米国務長官の間で覚書を締結、2009 年 5 月にオバマ米大統領が承認したものである。協定では、UAE はウラン濃縮や再処理を国内で行わない見返りとして、米国から原子力技術や核燃料の提供を受けることができるとされ、米国にとっては中東地域における初の二国間の原子力協定となる。